財政的不平等に関する考察

ジェームズ・E・ヒューズ・ジュニア弁護士

ジョアニー・ブロンフマン（

Ph.D.）、ジャクリーン・メリル

（*M.B.A.*）

「財政的不均衡」に関する考察

本記事における「財政的不平等（Fiscal Unequals）」という用語は、男性と交際関係にある女性が、その男性よりも多くの資産を保有しているという経済的状況を指す[1]。歴史的に見て、このような状況は稀にしか存在せず、仮に存在したとしても、良好な関係につながることはなかった。

21世紀の幕開けにあたり、西洋社会では、20世紀に起こった「女性が自身の経済的資産を管理する」という革命が社会に浸透するにつれ、経済的不平等を伴う関係について頻繁に議論されるようになっている。1900年当時と現在とでは、女性の経済的立場にどのような違いがあったのだろうか？ まず、1996年に『フォーチュン』誌は、米国の既婚カップルの30%において、妻の収入が夫を上回っていると報じた[2]。こうした世帯に関するより新しいデータを入手することはできなかったが、米国におけるその割合は増加していると考えられる。同時に、『エコノミスト』誌の最近の記事によると、西ヨーロッパの働く女性の59%が、世帯総収入の半分以上を稼いでいるという。 そのランキングのトップはフランス女性で、72%を占めている(3)。1900年に関する同様の統計情報は存在しないが、1900年当時、これらの国々の世帯のうち、女性の収入が男性を上回るものが10%にも達していたと予想する読者は、おそらくいないだろう。 第二に、1900年当時の女性が自身の資産を管理する状況は、次の事実によって最もよく表される。すなわち、父親は娘に息子の相続分の半分しか遺さず、娘を大学に進学させず、娘の相続分に対する管理権を息子に委ねていたのである。 20世紀を通じて、西洋社会ではこのパターンは根本的に否定され、今日では女性は大学に進学し（その数は男性を上回るほどである）、両親の財産を平等に相続し、自身の資産に対する直接的な管理権を与えられている。この変化は極めて根本的なものであるため、私はこれを形容するにあたり「革命的」という形容詞を用いても差し支えないと考えている。 改めて歴史を振り返れば、第一次世界大戦および第二次世界大戦、60年代から70年代にかけてのフェミニズム運動、そして教育、専門職、商業界における女性の近年の目覚ましい進歩によって、西洋社会における女性の役割に生じた変化が、女性の経済的富の増加、そしておそらく社会にとってより重要なこととして、自らの富に対する実質的な管理権の獲得につながることは容易に理解できる。

---

[1] 今日、多くの女性や男性が、結婚を伴う場合と伴わない場合の両方を含む、生涯にわたる関係を選ぶようになっている。本記事では、時折「夫」や「妻」という言葉を用いているが、より頻繁に「男性」と「女性」という表現を用いている。私の目的は、女性が男性よりも多くの資産を保有するすべての男女間の関係を、この一つの用語に包含させ、その用語が単なる記述的なものではなく、包括的なものとなるようにすることである。

[2] クラーク、キム、*「女性、男性、そしてお金（Women, Men & Money）」*、『フォーチュン』誌、1996年8月5日号、60-61ページ。

[3] エモット、ビル（編）、*『20世紀を振り返って』*、『エコノミスト』誌、1999年9月11日～17日号、5～44ページ。

なぜ私たちはこの現象に関心を持つべきなのか？　それは単に、女性の経済的富がパートナーのそれを上回る関係の結果について、歴史が極めて暗澹たる実態を示してきたからに他ならない。円満なカップルは、安定的で長期的な関係を望んでいる。社会はどのような方法で、そうした関係を阻害しているのだろうか？　世界中を旅する若手弁護士だった頃、私は世界中の義父たちが婿に対して抱く深い不安に衝撃を受けた。 どういうわけか、娘に対する婿の真意について義父たちが抱く懸念は、普段は冷静なこれらの男性たちの中に、根深い恐怖を呼び起こしていた。女性の家族が抱く不安に対処することは、最良の場合でもカップルの関係に余分な負担をかけるだけであり、最悪の場合、その関係は破綻に追い込まれることになる――なぜなら、関係を成功させるために不可欠な、家族全員からの重要な支援や関与が欠けてしまうからだ――ということが、私にはすぐに明らかになった。 後になって、こうした行動には生物学的および社会学的な理由があることを知った[4]。歴史小説、昔話、そして義父たちの知恵は、経済的な格差がある状況について二つのモデルを示しており、そのいずれもが、その関係は破綻するだろうと示唆している。最初のモデルを「財産目当ての男」モデルと名付けよう。このシナリオでは、男性は女性の財産を自分のものにすることを目的として関係に踏み込む。歴史には、この真実を示す多くの例がある。 例えば、古代の神話に登場する放浪の騎士が王女と結婚し、その後、ウェルギリウスの『アエネイス』に登場するアエネアスとディドの物語のように彼女を見捨てるケースや、ポストモダンな婿が義父の事業を引き継いだ後、娘と離婚するケースなどが挙げられる。 2つ目のタイプは「クラブマン」モデルである。このシナリオでは、男性の役割は呼び出された時に現れ、後継者をもうけるという義務を果たした後、比喩的な「クラブ」へと姿を消して引きこもることである。ここでの男性は腰抜けであり、女性の家族からは、この関係に人的・知的資本を何ももたらさない存在と見なされる。このパターンでは、男性が何かやることを見つけるために、女性のお金を管理する責任を任されることがよくある。同様に頻繁に、彼にはこれをうまくこなすために必要なスキルも適性も、さらには関心さえもない。結局、女性はこのような状況が自身の経済的利益に反していると気づき、彼を解雇することになり、関係に大きな負担がかかる。これら二つのモデルのいずれも、若いカップルやその家族に対して前向きな励ましを与えるものではない。 残念ながら、歴史上、こうした関係に対する前向きな第三のモデルは存在しない。

[4] タウンゼント、ジョン・マーシャル、『*男性が望むもの、女性が望むもの――なぜ男女は愛とコミットメントをこれほど異なるように捉えるのか*』、オックスフォード大学出版局、1998年。

上記の2つのシナリオは古くからあるものだが、これらの物語には、家族の間にある、より微妙で根深い恐怖が隠されている。それは階級の問題であり、経済的に不平等な関係があまりにも頻繁に引き起こす「下層階級への転落」への恐怖である。この恐怖こそが、こうした関係における多くの失敗の核心にあるのかもしれない。 アメリカ人の態度や行動に関する問題を研究している多くの記者や社会科学者たちは、アメリカ人が決して認めようとしない二つの問題――「お金」と「階級」――があると私に語った。仮にそれについて話すとしても、彼らはこれらの主題に関する本音を隠して嘘をつくだろう。これが、なぜこれらの主題に関する学術的研究がこれほど少ないのかを説明しているのかもしれない。 アメリカ人は、自分たちが皆ミドルクラスであると信じたいものだ。残念ながら、これは詭弁に過ぎず、特権階級や専門職階級のメンバーは、この不正確さを特に自覚している。女性が自分よりも経済的に恵まれていない男性と交際することによって家族内に生じる恐怖について掘り下げ始めると、すぐに階級の問題が浮上してくる。 進化生物学者は、遺伝的な理由から、社会は女性がより高い階級の人と結婚し、子供たちがより良い健康状態、住居、その他の資源にアクセスできるようにすることを好む一方で、男性がより低い階級の人と結婚することには目をつぶると述べている[5]。私の個人的な経験では、家族は、家族の目から見て、現在の階級的位置と同等か、あるいはそれを向上させるような関係を、若い家族構成員が築けるよう、多大な努力を惜しまない。 同様に、私の実務経験においても、また様々な社会科学者によって裏付けられているように、家族がより低い階級に転落する可能性は大きな不安をもたらす。多くの家族は、女性の財産が、経済的資産が少ない、あるいは全く持たない男性との関係において危険にさらされれば、家族の財産が浪費され、その地位が失われることを恐れていることは明らかだ。これは特に、その男性が下層階級の一員であると見なされる場合に当てはまる。 上述した二つの歴史的なシナリオのいずれか、あるいはより微妙な階級の問題を理由に、家族がカップルに対して団結して反対する場合、その関係を維持し続けるには、並外れて強い絆で結ばれた二人である必要がある。

家族の女性が「格下の男性」と結婚することへの懸念は、決して新しいものではない。神話、歴史学、社会学、人類学には、こうした懸念に関する事例が数多く残されている。 問題は、特権階級に属し、専門職に就く女性たちが、自分たちが資産を所有し、それを管理していることに気づいたとき、どう行動するかということです。彼女たちは誰とでも自由に交際できる立場にある中で、どこでパートナーを見つけるのでしょうか？階級や金銭の問題は、アメリカ人が気軽に語り合うような話題ではありませんが、女性の収入力や経済的資産が男性のそれを大幅に上回る状況で、カップルが関係を築き維持しようと努める場合、その関係が成功するためには、この問題に真正面から向き合わなければなりません。こうした問題を隠したり、秘密扱いしたりすることは、その悪影響をさらに増大させるだけである。この問題を前面に出し、真正面から向き合うことこそが、カップルとそのそれぞれの家族が、その問題を食い止め、やがては脇に置いておくための唯一の方法である。

明らかに、新しい時代には新しいルールを築き上げなければならない。問題は、どこから手をつければよいかということだ。過去7年間、私はこの問いへの答えを探るため、私よりもはるかに経済的に裕福な人生のパートナーや、2人の同僚であるジョアニー・ブロンフマン氏、ジャッキー・メリル氏と積極的に協力してきた。ブロンフマン氏は私と同様の関係にあり、社会学の博士号を取得しており、博士論文では……の家族に関する問題をテーマに執筆した。

[5] やや驚くべきことに、さまざまな社会科学の研究で報告されているように、女性の教育水準や職業的地位が高まるにつれて、この同じパターンが続いているようだ。

特権[6] に関する問題を博士論文のテーマとして取り上げた。メリル氏も同様の関係にあり、MBAを取得している。こうした個人的・職業的な歩みの中で、私たちはこの問題が提起する課題に苦悩する多くのカップルと知り合うようになった。これらの複雑な社会問題に対する答えを知っていると考えるのは傲慢だが、経済的不平等がもたらす複雑な課題のいくつかを、やがて解決するのに役立つかもしれない有益な方向性が見えてきたと信じている。

本記事の残りの部分では、こうした関係を成功に導く可能性のある、男性、女性、家族、そして社会的な行動に関する考察を提示します。ブロンフマン氏は、自身の臨床経験を通じて観察してきた、男女が関係に持ち込む態度や期待について解説します。また、カップルが関係を成功させるために何ができるかについて、いくつかの提案も行います。 最後に、メリル氏が、個人やカップルがこれらの問題を安全に表面化させ、前進するための具体的な実践法について提示します。

[6] ブロンフマン、ジョアニー、*『相続財産の経験：社会心理学的視点』*、1987年。

私たち3名にとって、こうした関係における重要な課題は、パートナー双方の自尊心と、女性が自身の幸福を、経済的なものよりも、男性が関係に注ぐ感情的・知的資源に基づいて築こうとする意欲にあるように思われます。「男性は経済的な支え手であり、女性は養育者である」というジェンダーの固定観念を念頭に置けば、男性が経済的に家族を支えていない場合、いかに自分が価値のない存在だと感じてしまうかが容易に理解できます。 もちろん、男性がパートナーよりも大きな経済的富を築くケースもあるだろうが、相続、離婚の和解金、教育水準の向上、高収入の仕事の機会の増加などにより、社会全体の金融資本に占める女性の割合が高まるにつれ、そのような状況は稀になっていくだろう[7]。特に、男性の天職が経済的富の創出ではない場合、男性パートナーがそのような富を築く能力に関係の成否を賭けるのは、賢明な選択とは言えない。 個人が天職として呼ばれる可能性のある仕事の範囲は極めて広いため、人的資本や知的資本の形成とは対照的に、経済的富の形成に賭けることも、同様に成功の見込みが薄い賭けである。実際、この種の関係が成功する明確な利点の一つは、男性が真に天職と感じる仕事に打ち込む機会が得られることであり、それによって彼は自らの最も深い目的を追求することを通じて、関係の幸福に貢献できるようになる点にある。

社会、前述の二つの否定的な歴史的シナリオ、そして階級の問題は、依然として男性の役割に対して否定的な見方を植え付け続けている。こうした否定的な立場を乗り越えるには、非常に強固な関係が必要だ。ここで、男性パートナーの自尊心の問題が極めて重要になる。例えば、数年前、ある友人が特権階級の家族構成員の配偶者たちを集めた会合を主催していた。出席者の中には、非常に成功した専門職として活動している男性がいた。 世間の目には、彼はその誠実さと癒しの才能の両方において深く評価されていた。さらに、彼は非常に豊かな収入を得ていた。しかし、妻が実家から相続した財産のため、彼が夫婦関係に経済的に貢献できる額は、常に微々たるものに留まることが確実だった。その集まりで、彼は深い悲しみを込めて、妻の実家の目には、自分が「黒羊」と見なされていると語った。なぜなら、彼にはすべてを投げ出して、彼らが旅行する先へどこへでも同行することができなかったからだ。 彼は、世間から見れば大成功を収めているにもかかわらず、妻の家族からは全く成功していないと見なされているという事実と葛藤していた。これは、私が耳にした数多くの同様の話の一つに過ぎない。私が研究したり関与したりしたほぼすべてのケースにおいて、そのカップルは、男性が真の「面目」、誠実さ、尊厳、そして自尊心を保てるよう奮闘している。繰り返すが、ここでの問題は男性の自尊心である。 ここで私が言及しているのは、「マチズモ」や「ピーター・パン」症候群といった偽りの男性像のことではない。むしろ、成熟した男性、つまり、各自の道を経て男としての成長を遂げ、私の父が私に示してくれた男としての単純な試練——「自分の行動に完全な責任を負えるか？」——に耐えうる男性たちのことを指している。

[7] この点をさらに強調するために言えば、私がコンサルティングを行っている多くの金融機関は、女性の平均寿命が現在、男性のそれを大幅に上回っていることを示唆する生命表を用いており、21世紀半ばまでに、アメリカの世帯資産の60%が女性によって所有される可能性があるとしている。

スーザン・ファルディが著書『*Stiffed: The Betrayal of the American Man*』[8]で指摘しているように、私たちは今、多くの西洋人男性が現代的な男らしさのモデルを見出すことに苦労している時代に生きている*ことを*、私はよく認識している。この葛藤は、男女が経済的不平等という新たな課題に対処する助けにはなっておらず、かえって事態を難しくしている。とはいえ、社会の古いルールがこうした新しい時代にはもはや通用しないことを認識しつつ、関係をうまく築くために懸命に努力しているカップルは数多く存在する。最もうまくいっているように見えるカップルたちは、新しい経済環境に合わせて新たなルールを築き上げるという刺激的な挑戦を前向きに受け止めている。こうしたカップルたちは、男女間の経済的資源のより平等な配分こそが未来であることを理解している。彼らは、関係の両者にとってより堅実で公平なルールが確立される可能性に満ちた、素晴らしい新しい世界が待ち受けている未来を見据えているのだ。 この問題の真の悪役は、男性を「金目当ての男」や「遊び人」と見なす歴史的な観念、階級の問題、そして社会が男女に特定の役割を押し付けていることにある。

新時代のカップルは、新たな経済状況に対応するために新しい行動様式を確立しなければならない。そうした行動様式は、社会が容認する範囲において、大幅な、あるいは革命的な変化さえも必要とするだろう。変化は常に困難を伴うものであり、特に「経済的不平等は関係の破綻を招く」という通説のような古くからの慣習に挑む場合はなおさらである。 変化に対処することの難しさにかかわらず、女性が経済的富を新たに所有し管理することのプラス面は、古くからの性差別を解消する上で明らかに有益であり、新たなルールが確立されなければならない。重要な問題は、そのような関係にあるカップルが、新たな状況を勇気を持って受け入れ、女性の強力な役割や富と、男性の自尊心の問題とのバランスを取れるかどうかである。女性のために新しい役割が築かれているのと同様に、男性のためにも新しい役割が築かれなければならない。

カップルが新しいルールを築かなければならないのと同様に、彼らが属する家族や社会もまた、新しいルールを築かなければならない。「経済的不平等」が当たり前となっているカップルが暮らす世帯がどれほど多いかを示す統計を鑑みれば、この問題は、長期的な成功を目指して組織化を図る家族にとって、最も重要な関心事となる可能性が高い。 古い役割が単に混乱や甚大な不幸を招くだけであるならば、家族や社会全体が、その古い役割の継続を容認するとは到底思えません。家族は、新しい経済モデルを取り入れるために、新しい物語や新しいモデルを創り出さなければならないでしょう。私は、このプロセスがすでにかなり進んでいると信じています。 しかし、このプロセスを成功させるためには、「経済的不平等」な関係にあるカップルが、自分たちの経済的関係の性質を認め、それが関係に与える深遠な影響を認識し、そしてその状態が関係が続く限り続く可能性が高いという事実を前向きに受け入れる必要があります。また、こうしたカップルの家族も、この現実を認め、それを受け入れ、尊重しなければなりません。これは比較的簡単に聞こえるかもしれませんが、西洋社会では、お金はほとんどの人が口にしない話題であることを忘れないでください。
議論に経済的不平等が加わると、事態は容易に過熱してしまう。しかし、新しい環境下において、家族がこうした関係を強化し、家族全体をも強固にする新たなパラダイムを見出すためには、家族はこれらの問題を率直に話し合うことを学ばなければならない。明らかに、古い物語と、それらが引き起こす感情が依然として

[8] ファルディ、スーザン著『*Stiffed: The Betrayal of the American Man*』、ウィリアム・アンド・モロー社、1999年。

家族の精神に深く根付いている以上、これは一朝一夕に実現するものではない。しかし、変化は必ず訪れる。なぜなら、子供や孫たちが築く関係が成功しなければ、家族は長期的な成功に必要な長期計画や体制を構築できないからだ。私の見解では、家族こそが、成功する関係に関する新たな物語が生み出される「鍛冶場」となるだろう。

ここで、議論を共著者の皆様にお譲りしたいと思います。まずはブロンフマンさん、次にメリルさんにお話を伺います。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

ヒューズ氏と私は、近い将来、多くの女性が男性パートナーよりも多くの収入を得たり、より多くの財産を相続したりするようになるという点で意見が一致しています。この事実は、結婚やその他の真剣な関係における男女の役割についての考え方を、私たち全員に再構築することを迫ることになるでしょう。ここでは、女性と男性の関係に影響を与えてきた現在の社会的態度や期待についていくつか述べ、その後、前向きな形で変化を起こすための方法を提案したいと思います。

女性たちは、社会における障壁を取り除くために懸命に努力してきました。それなのに、なぜ女性が夫や恋人よりも成功していたり、裕福だったりすることが、今なお問題視されるのでしょうか？ 自分よりも収入が少なかったり、資産が少なかったりする男性とパートナー関係にある女性がいるのは、ごく自然なことです。私たちの生活に関わる男性が、私たちよりも経済的に恵まれていないからといって、なぜ私たち自身や周囲が居心地の悪さを感じる必要があるのでしょうか？ 男性が女性よりも多くの富や権力を持つべきだという本質的な理由などないのに、私たちの社会は、男性がそれらの役割を担うことに慣れきっており、
その役割を担うことに慣れきっており、女性も男性も、その役割が逆転することにしばしば不安を感じます。かつては、こうした懸念は相続財産を持つ女性たちのものでした。今日、ビジネス界で女性がますます成功を収めるにつれ、キャリアウーマンたちもまた、こうした問題に直面しています。

私たちの社会は、依然として多くの点で家父長制の社会です。この社会は、男性がリーダーとなり、「重要な」権力を持つことを奨励しています。男性は、社会で活躍し、お金を稼ぎ、生計を立て、家族を養うための収入を家に持ち帰る、有能な存在であるべきだとされています。一方、女性は、子育てをし、男性を精神的に支えることが期待されています。 私たちは、男性が金銭を含む「重要な」分野で力やスキルを持ち、女性が家庭や人間関係など「それほど重要ではない」とみなされる分野で力やスキルを持つことを期待している。

もし、男性がある分野で、女性が別の分野で力を発揮することが期待され、その両方が同等に評価されるのであれば、それほど問題にはならないだろう。しかし、女性が男性よりも多くの収入を得るとなると、それは「経済的な力を持つべきは男性である」という、私たちの内面化された家父長制的な考え方に反することになる。これが私たち全員に違和感を覚えさせるのだ。

社会として、私たちはこうした考え方に苦悩してきました。女性はもはや専業主婦であることに満足しておらず、家族が良好な生活水準を維持するには、夫婦共働きが必要です。残念ながら、男女ともに外で働いている場合でも、家庭や家族の責任は女性が負うべきだという感覚が、依然として残っているのかもしれません。

確かに、職場では「ガラスの天井」が問題視されており、

労働統計局のデータによると、1998年には米国の既婚女性のほぼ3分の1が夫よりも多くの収入を得ていた。しかし、家庭内、とりわけ富裕層の家庭においては、「男性が女性よりも多く稼ぐべきだ」という期待は変わっていない。さらに、個々の女性や男性がこうした問題に対処しようとしている一方で、経済的な不平等という状況を再検討するよう求める、女性と男性による運動は存在しない。

もし、男性ではなく女性が主な生計維持者になった場合、どうなるだろうか？「これは素晴らしい。これまで男性に重くのしかかっていたこの責任が、私たちの家族ではそうではないというのは素晴らしいことだ」と言うかもしれない。しかし、実際にはそうは感じないことが多い。女性も男性も、何かがおかしいと、居心地の悪さを感じるのだ。 女性は――その理由を必ずしも明確に理解しているわけではないものの――自分が成し遂げたことが多すぎること、もはや自分がいるべき場所や枠、役割から外れてしまっているという事実に対して、不安を感じている。一方、男性は「彼女が自分より多く稼いでいるのは、自分に何か問題があるのか？「自分は不十分なのか？　野心が足りないのか？　それとも彼女に何か問題があるのか？　彼女は野心的すぎるのか？」といった疑問を抱く。こうして、自分が力や富を持つことが本当にいいのかという自尊心の問題を抱える女性もいれば、身近な女性よりも経済的な力が劣っているという事実に自尊心の問題を抱える男性も現れるのだ。

女性の自尊心の問題は、時に「ホームレス女性」になってしまうのではないかという懸念として現れることがある。つまり、いくらお金を持っていても、それをすべて失ってしまうかもしれないという恐怖だ。私はこれを、家父長制が女性の自尊心に及ぼすもう一つの影響だと見ている。女性は、自分で生計を立てられると信じて育つわけではないのだ。裕福な家庭の女性は、多くの場合、兄弟よりも少ないお金しか与えられず、お金に関する情報も、訓練も、管理権も制限されています。事実であるかどうかにかかわらず、彼女たちは兄弟や男性のいとこよりも能力が低いと見なされがちです。裕福な家庭におけるこうした問題は、経済的な事柄において女性は男性より能力が低いという、私たちの文化に依然として根強い見方によってさらに強められています。 自分自身を養う能力に疑念を抱いていると、富を失うという考えは、自分が一文無しになってしまうのではないかという恐怖を引き起こす。自尊心の欠如により、こうした女性たちは、もし財産を失えば、自分の生計を立てられなくなってしまうと感じてしまう。当然のことながら、この態度は、自らの努力で富を築いた女性よりも、相続によって富を得た女性の方がより顕著に見られる。

相続した資産を持つ女性には金銭的な能力が欠けているという社会的規範について考えるとき、私は、足を縛られ、それゆえに自分の身の回りの世話をすることができなかった中国の上流階級の女性たちのことを思い浮かべずにはいられません。彼女たちは、肉体的にも精神的にも依存するように仕向けられた美しい女性たちを養うことのできるほど裕福な夫たちの面目をよく保っていたのです。

ヒューズ氏が女性クライアントに見出す態度の一つに、「私のものは私のもの、あなたのものも私のもの」というものがある。私は「私のものは私のもの」という言葉を、別の意味で解釈したい。私には、それは「私のものは私のもの……なのか？」と映る。相続した資産を持つ女性たちは、そのお金を自分自身のものとしてではなく、銀行のもの、父親のもの、あるいは家族のものとして捉えるように育てられてきたことが多い。 そのお金を「自分のもの」だと考えるよう促されてこなかったため、自分には本当には持っていないと感じるものを手放すことに抵抗を感じるのです。また、相続した資産を持つ女性の多くは、自分のお金を管理するよう育てられてもいません。その結果、自分のお金に対して居心地の悪さを感じ、パートナーとの金銭関係もうまく築けないことがよくあります。

このフレーズの後半部分である「あなたのものは私のもの」については、私は「経済的な余裕が十分にあるにもかかわらず、それでもあなたに世話してもらっていると感じたい」と解釈する。私たちの社会では、男性が女性を養うべきだというメッセージが伝えられている。そして女性たちは、自力で稼いだ資産や相続した資産を持つ女性でさえ、依然としてそれを切望している。ある大手インターネット企業の幹部がこう語った。「私の心のほんのわずかな部分には、結婚して誰かに世話してもらいたいという幻想があったのです」[9] 男性もまた、世話されたいと切望しているものの、それを表に出すことは許されていないのだと思う。女性は男性の世話をするものとされているが、それは経済的な領域では当てはまらない。女性は、男性や社会がそれに気づかないような形で、男性の感情的なニーズを満たすことを期待されているのだ。

ヒューズ氏の指摘に同意する。つまり、一部の裕福な女性が、自分より経済的に恵まれていない男性に経済的に面倒を見てもらいたいと望むことは、男性にとって困難な状況を生み得る。女性よりも経済的に優位でなければならないという期待を無条件に受け入れる男性は、必然的に充実した人生を送るための選択肢を狭めてしまう。また、男性にそれを期待する女性は、パートナーと築ける関係の種類を制限してしまう。

たとえ困難であっても、経済的に格差のある状況について、これまでとは異なる視点で考える必要があると私は提案したい。これは、女性にとっても男性にとってもうまく機能してこなかったシステムを変える、刺激的な機会である。しかし、そのためには、なぜ女性が男性よりも多くの金銭を持っているという状況がこれほど居心地の悪いものなのかを理解する必要がある。 端的に言えば、男性にとっては、自分が優位な立場にあることを当然と期待しているからであり、女性にとっては、権力を持つことに抵抗なくいられるよう育てられてこなかったからである。そして、たとえ私たち自身がその状況に抵抗を感じなくても、この役割の逆転にまだ適応できていない友人や家族の感情に対処しなければならない場合もあるだろう。

私たちは過渡期にいます。女性がより多くの成功と権力を手に入れつつあることは、胸躍る出来事です。しかし、役割や地位、男女間の関係に対する私たちの感情や期待が、こうした成果と歩調を合わせられていないことに気づくこともあります。では、この状況にどう対処すればよいのでしょうか？

人間関係をうまく築くための決まったルールなどありません。それぞれのカップルが、自分たちなりの関係を築いていく必要があります。しかし、決定的な違いを生むのは、お互いへの基本的な敬意、天職や職業への献身、自尊心、年齢と成熟度、問題について話し合う能力、自分や生家の金銭に関する経験への理解、関係の中で権力をどのように行使しているかへの自覚、そしてユーモアのセンスだと私は考えます。

---

9 『*Reversal of Fortune*』、『Harper's Bazaar』、2000年8月号、192ページ。

互いに対する基本的な肯定的な尊重を基盤とする関係にあるカップルは、どのような課題にもより容易に対処できる。これには経済的な格差への対処も含まれる。互いを尊重し、相手が基本的に善良で、道徳的で、信頼できる人物であると信じているカップルには、経済状況に対する感情を整理するための土台があるのだ。

カップルは、お互いの活動を尊重し合う必要がある。私は、男性が収入や投資を通じて、パートナーの経済的資本に匹敵する必要はないと考えているが、何らかの天職や職業に対する献身的な姿勢は持つべきだ。こうした献身的な姿勢は、関係やお金に依存しない、個人のアイデンティティと物事を捉える基準を与えてくれる。

女性も男性も、互いに対して自信を持ち、有能であるとき、関係における金銭面での対応が最もうまくいく。自尊心の低い女性は、自分のアイデンティティを富に依存していると感じるかもしれない。同様に、自分自身に不満を感じたとき、富を利用して自己肯定感を高めようとすることもあるだろう。長期的には、これらは良い戦略とは言えない。 健全な自尊心は、自分のスキルや能力を自覚し、自己啓発に取り組み、自立を達成することから生まれる。

カップルの年齢や成熟度は、こうした問題をどれだけうまく交渉できるかに影響を与える。20代前半は、カップルにとって経済格差の問題を解決するのが難しい時期だ。男性がまだ仕事で成功を収めておらず、自活できる能力を証明できていない場合、女性の富に脅威を感じ、自分には太刀打ちできないと恐れるかもしれない。 一方、男性が年上で、自尊心が高く、選んだキャリアで成功を収めている場合、女性の資産は脅威とはならないかもしれない。ある女性と話したことがあるが、彼女の夫は教師だった。彼は、彼女が家業の取締役会長になるよう後押ししてくれた。彼女はこう語った。
「夫は、この一連の過程を通じて、本当に支えてくれました。権力のある立場にある女性と結婚することに対して、何の抵抗も感じない男性と結婚できたことは、とても幸運だと思います……『配偶者』であることに、彼は全く動じません。『彼は本当に特別な男性です』」

カップルにとって最も重要なスキルの一つは、互いに問題について話し合い、互いの話に耳を傾け、互いの懸念を理解し、それに対処する能力です。カップルが直面している困難について、自分自身の役割を率直に振り返ろうとする姿勢は、特に有益です。 さらに、夫婦が互いの家庭におけるお金の歴史――家族にとってお金が何を意味していたか、何にお金を使っていたかなど――について話し合うことは、しばしば役立ちます。自分やパートナーのお金に対する感情のルーツを知ることで、夫婦には探求と成長の機会が生まれ、より深い親密さへとつながります。こうした会話は、夫婦がお金に関して互いに接する際、より意識的な対応を築く助けとなるでしょう。

経済的に余裕のある女性は、真剣な交際を始める前に、お金との関わり方を整理しておくのが理想的であり、富に対する未解決の葛藤をすべてカップル関係に持ち込まないほうがよい。お金に対して不安を抱えている女性が、自分とは異なる金銭観を持つパートナーにお金の管理を委ねてしまうと、問題が生じる可能性がある。 やがて、女性はこうした取り決めに違和感を覚えるようになり、夫は管理権を手放すことに消極的になるかもしれません。親密なパートナーとお金の話をしなければならない状況になる前に、女性が自らお金との向き合い方を整理しておくほうが、うまくいくものです。

同様に、男性もまた、金銭に関する問題を関係に持ち込む前に、自分自身で解決しておくことが役立ちます。

女性も男性も、大切なパートナーとの関係において、自分たちがどのように権力を行使しているかを自覚する必要があります。これは複雑な問題です。女性として、自己主張をしたり自分の望みを伝えたりするのは難しいこともあります。しかし、裕福な女性である私たちは、お金という権力をどのように行使しているかについて、無自覚である可能性があります。 一般的に、人間は自分自身の力の行使よりも、他者の力の行使——特にそれが不適切に感じられる場合——にはるかに敏感です。関係の中で意思決定がどのように行われているかに注意を向けることは有益です。例えば、お金の使い道、住む地域、休暇の行き先などを決めるのは誰でしょうか？ お金を持っている人が、意思決定においてより大きな発言権を持っているように見えませんか？

最後に、ユーモアのセンスを持つことは、カップルが直面している問題に対して健全な視点を保つのに役立ちます。

最も重要なのは、女性が裕福で男性がそうでない場合、女性も男性も新しい考え方を学ぶ必要があるということです。これは乗り越えられない問題ではありませんが、状況について新鮮な視点で考える意欲と、女性も男性も自分が抱いている感情について話し合える対話の場を持つことが求められます。

それには、この役割の変化に脅威を感じず、自分自身に自信を持っている、並外れた男性が必要です。また、伝統的な期待を内面化してきた自分の考え方に敢えて挑戦しようとする、並外れた女性も必要です。そして、関係がどうあるべきかという従来の固定観念に挑むような関係を築くことが何を意味するのかを、共に探求しようとする、並外れたカップルが必要です。

次のセクションでは、メリル氏が、カップルがこうした課題に対処するのに役立つプロセスを紹介します。

* * * * *

本記事の冒頭で、ヒューズ氏は、経済的な格差があるカップルが直面し続けている課題の歴史的背景について述べました。ブロンフマン氏は、そのようなカップル間に生じる不健全な力学の文化的・感情的な理由の多くを要約し、カップルが取るべき行動についていくつかの一般的な提案を行いました。ここでは、カップルにとって実用的な具体的なプロセスをご紹介します。

歴史がこうした関係の将来展望についてこれほど暗い見通しを示している中、人々は自らの未来を再定義するための指針を渇望しています。こうした状況にある男性も女性も、根深い違和感を抱いています。カップルは、より良いコミュニケーションスキルを身につけ、お金、成功、権力に関するそれぞれの家族のメッセージ、信念、価値観を明らかにする必要があります。私たちは皆、これらの問題についてこれまでとは異なる考え方をしなければならないという点で意見が一致しています。

今こそ、こうした関係をうまく管理するための確固たる有用なツールを手に入れるための実践的な方法を模索する時です。私が*「ディスカバリー」*と呼び、以下で詳しく説明するこのプロセスは、新たな学びの方法を提供するとともに、この

この領域を歩む方法を変える機会を提供します。

1989年、私はアスペンに「センターポイント」を設立しました。これは、カップルや女性を対象にリトリートやセミナーを提供する会社です。 私はMBAを取得し、ファシリテーターとしての徹底的な訓練を受けていました。センターポイントのプログラムの中核は、個人のミッションステートメントと、カップルとしてのミッションステートメントの作成にあります。参加者たち——彼らは私にとっての師でもありますが——と共に、人生の目的を見出すことで、私たちは明確さ、自信、そしてエネルギーを得られることを発見しました。その結果、自分自身やパートナーに対する批判や恨みが和らぐことがよくあります。

経済的に格下の2人の男性と離婚を経験し、その後生き延び、むしろ充実した人生を送ってきた者として、こうした関係を改善するためのツールを私自身の経験から共有します。私の職業人生と私生活の中で、長年にわたり開発・実践されてきたこの旅と探求に、ぜひご参加ください。

カップルや、まだ恋愛関係にない個人が「ミッションステートメント」を作成し、それを通じて*「ディスカバリー」*に取り組むことで、関係の健全性、安定性、幸福を損なう多くの緊張を和らげることができます。時間の経過とともに、自分たちの人生に意味を与えるものを定義し、再定義するスキル、そしてそれぞれにとって「成功」とは何かを考えるスキルを身につければ、
、経済的な問題を主軸から外すことができるでしょう。

*「ディスカバリー」*のプロセスをご紹介する前に、私がなぜカップルや個人にとってのミッションステートメントの役割を重要視するようになったのか、その経緯を説明させてください。かつて、私は富裕層の家族を対象とした1週間の教育プログラムに参加したことがあります。著名な精神科医であるブルーノ・ベットルハイム氏が講演者の一人でした。彼はプログラムの冒頭で、聴衆の親たちに3つの質問に答え、手を挙げてほしいと求めました。

「自分の時間やエネルギーを**どのように**費やしているかを理解している子供がいる方はどれくらいいますか？」全員が手を挙げました。
「自分が**なぜ**そのように時間を費やしているのかを知っている子供がいる方は？」　挙手した人ははるかに少なくなりました。
「自分が時間をどのように過ごしていることについて、自分がどう**感じているか**を知っている子供がいる方は？」　約3人が手を挙げました。

聴衆が彼の問いが示唆する意味について考え込む様子を眺めながら、私は、彼らが子供たちの反応を考える前に、まず自分自身に同じ問いを投げかけてみるべきだとふと思った。これらの問いを別の言い方に置き換えてみよう。実際、私たちを動かすものは何なのか、何に情熱を感じているのか？ 私たちがエネルギーと時間を注ぐ活動に対して、天職としての使命感を持っているだろうか？ それらの活動は、私たちにとって行う価値があるものに見えるだろうか？ 私たちは、自分の情熱や動機を、他者、特にパートナーにどれほどうまく伝えられているだろうか？

これらの問いは、パートナーよりも経済的な余裕があるという現実と向き合っている人々にとって、学びの核心をなすものです。「*ディスカバリー*」というプロセスは、新たな出発のための方法、枠組み、そして道しるべを提供してくれます。

ここ数年、私は自分の人生における経済的な不平等に対して、以前より前向きに受け止められるようになりまし

た。その一因は、私のパートナーである素晴らしい男性のおかげです。彼は私よりも資産が少ないのですが

資産を保有している素晴らしい男性のおかげでもあります。健全な関係を築くための私たちの道のりは、主に、個々の「ミッションステートメント」と、カップルとしての共通のミッションステートメントを作成したことによって支えられてきました。私たちは定期的に*「ディスカバリー」*のプロセスを実践しています。時間をかけて、何が生に意味を与えるのか、何が私たちにとって重要なのか、私たちの信念や情熱は何か、そしてお金に対する価値観の違いについて探求することを楽しんでいます。 自分たちの天職や優先事項に焦点を当てることで、経済的な不平等や、そこに内在する権力の問題は、私たちの生活の中心的な舞台から取り除かれました。私たちはますます互いを全面的に支え、感謝し合うようになっています。難しい問題についても話し合います。今でも緊張したり傷ついたりする瞬間はありますが、そうした瞬間は正直さと安全な環境に基づいています。私たちは「成功」や「力」の定義が大きく異なり、お金の意味や人生における役割についても、それぞれの家族から異なるメッセージを受け取ってきました。

こうした洞察のおかげで、私たちは「決して口にしてはいけない」とされる話題を避けることから生じる不健全な空気を回避できています。最も混乱している時こそ、私たちはその緊迫感から一歩引いて、富裕層を対象とした調査の結果を笑い飛ばします。こうした調査は、インタビューを受けた際、富裕層は概して真実を語らないことを裏付けています。つまり、彼らは自分の富について正直な形で語っていないということです。

こうして、私たちはここでの旅へと至り、ミッションステートメントを策定するための具体的な手順へと進みます。ミッションステートメントとは何を指すのでしょうか？ ミッションステートメントは、数語から数段落まで、どのような形でもかまいません。それは、私たちのアイデンティティのさまざまな側面が表現される、意味の「傘」としての役割を果たします。 ミッションステートメントは、仕事や家族・地域社会における役割、さらには目標や「やることリスト」を超えた、私たちの「ありのままの姿」を映し出します。それは、私たちがしばしば*「やるべきこと」*に追われ、「人間*であること*」を忘れがちな時に、*人間*としての自分自身を思い出す助けとなります。そこには、私たちの情熱、優先順位、価値観、そしてエネルギーを注ぐ活動が含まれます。多くの場合、私たちはミッションステートメントに、これまで後回しにしてきた、あるいは今まさに表に出し始めたばかりの自分の一面を盛り込みます。

なぜ私は、ミッションステートメントを書くプロセスを*「発見」*のプロセスと呼ぶのでしょうか？それは、私たちの目的を「作り出す」必要も、「調査する」必要もないからです。ただそれを「感知」し、「発見」すればよいのです。その「感知」のプロセスは、生涯にわたるものであり、目的地ではなく旅そのものです。それは、外部で調査するのではなく、内なる声に耳を傾け、互いに耳を傾けることを必要とします。これは進行中の有益な作業であると同時に、進行中の「遊び」でもあると考えてください。

以下の3つのエクササイズは、私たちの情熱、価値観、そして私たちを満たしてくれる活動の一覧を提供してくれます。これらのエクササイズに取り組む際は、それらが個人として、またカップルとして、内面の世界を探求するための招待状であることを心に留めておいてください。私たちの情熱は、私たちの魂が何を渇望しているか、そして私たちがどこに喜び、楽しみ、満足を見出しているかを反映しています。
日々の生活において。私たちの価値観は、時間とエネルギーを何に費やすかを選択するための基盤となります。情熱と価値観から生まれる活動こそが、私たちが世界に変化をもたらすための道なのです。

各演習は、書きながら進めてください。これらは、個人のミッションステートメントや、カップルとしてのミッションステートメントを起草するための土台となる素材です。ミッションステートメントは、私たちが時に忘れてしまいがちなこと——すなわち、私たち一人ひとりに天職があり、人生において何かを成し遂げようとしている——ということを再確認させてくれます。

まず、3つの演習を各自で完了させてください。パートナーがいる方は、その後、お互いのメモを共有し、話し合ってください。最後に、個人は個人のミッションステートメントを起草します。カップルは、2つの段階に分けてミッションステートメントを起草します。まず、それぞれが個人のミッションステートメントを書きます。次に、それぞれの個人のミッションステートメントを融合させ、カップルとしてのミッションステートメントを起草します。

演習1

あなたの理想の一日を描写してください。すでに生活の中にあるものに加え、その一日をより理想的なものにするために追加したいことや、取り除きたいことも含めてください。これは、あなたの想像力とユーモアを存分に発揮するための課題です。現実的になる必要はありません。睡眠時間や移動にかかる時間を考慮する必要もありません。目的は、あなたの夢や喜びとなるものを、できるだけ長くリストアップすることです。

些細なことも忘れないでください。ある人にとっての理想の一日は、前夜にぐっすり眠れたことから始まります。またある人は、医師から「健康状態は良好だが、5ポンド体重を増やす必要がある」と告げられることから始まります。ある女性は、常に視力が完璧なので、もう二度と眼鏡を探す必要がないと宣言します。またある人の理想の一日には、3つの異なる大陸で朝食、昼食、夕食を摂ることが含まれています。

子供の頃に楽しんだことも必ず書き出してください。それらは、私たちが後回しにしたり、無視したりしてきた自分の一面であることが多いのです。 野球が大好きでも、もうプレーできなくなってしまったとしても、とにかく書き加えてください。別の形で野球を生活に取り戻すことができるかもしれません。自分のあらゆる側面を反映した活動や考えを、できるだけ多く盛り込んでください。例えば、有能、創造的、遊び心がある、生産的、好奇心旺盛、外向的、内向的、官能的、運動神経が良い、音楽的、思いやりがある、美的感覚に富む、野心的、几帳面、精神的な、慈善的な、自立している、ボランティア活動をしている、あるいは生涯学習者などです。

演習2

20年後の自分を想像してみてください。あなたは、自分の子孫や友人の子孫たちに囲まれています。暖炉の周りなど、温かくリラックスした雰囲気の中にいます。彼らに対して、どのような価値観や人格的資質を育み、それに基づいて生きるのが重要だと伝えますか？ 自分の経験から、どのような知恵や真実を彼らと共有したいですか？ 聞き手の立場に立って、できるだけ具体的かつ詳細に考えてみてください。 私たちの目的は、できるだけ多くの価値観と知恵を挙げることです。まず、あなたが人生で体現している、あるいは育みたいと思っている価値観について考えてみてください。ある価値観について、実際にそれを実践しているのではなく、口先だけで言っているだけではないか、と自問してみてください。

経済的に恵まれない人々にとっては、自分にとってお金とは何か（そして何ではないか）、そして支出や貯蓄に対する自分の姿勢について、抱いている洞察や疑問を盛り込むことが重要です。これらすべてのテーマに関して、生い立ちの家庭からどのようなメッセージ——明示的なものも、暗黙的なものも——を受け取ったかを考えてみてください。慈善活動にどのような価値を置いていますか（もしあるなら）、成功をどのように定義しますか、
また、権力の肯定的・否定的な側面をどのように定義しますか？「誠実さ」とは何ですか？「思いやり」は？「尊敬」は？人生の早い段階で出会いたかった真実や美徳は何ですか？

「理想の一日」の演習のように現実離れした内容にするのではなく、演習2への回答は、あなた自身の言動に基づいたものであるべきです。

演習3

あなたが60歳の誕生日を迎えたと想像してください。人生で最も誇りに思う活動や貢献について記事を書くよう依頼されました。すでに成し遂げたことだけでなく、今後達成したいことも述べてください。家族、地域社会、同僚、友人たちに、どのように記憶されたいかを考えてみてください。文章のスタイルや文法の正しさについては気にしないでください。必要であれば箇条書きを使って構いません。

* * *

各演習において、あなたの目的は、できるだけ広い網を張り、最大限の情報を集めることです。できる限り好奇心を持って、できるだけ多くの情報を「釣り上げる」つもりで考えてみてください。ここには採点はありません。あなたの好奇心を満たすための有益なフィードバックがあるだけです。

このプロセスを始めるのに最適な時期は、恋愛関係になる前です。幸運にもすでにパートナーがいる方は、友人や兄弟姉妹と一緒にこれらの演習に取り組んでみるのもよいでしょう。カップルにとっては、今この瞬間ほど良いタイミングはありません。各演習を終えた後は、パートナーとメモを共有し、話し合ってください。

個人およびカップルのミッションステートメントの草案を書き始める前に、集めた資料について振り返ってみるとよいでしょう。多くの人は、この3つのエクササイズを何度か繰り返し行うことを好みます。練習を重ねれば重ねるほど、得られるフィードバックはより豊かなものになります。とはいえ、最初の試みで得たメモがあれば、最初の草案を書く準備は整っています。

ミッションステートメントの草案作成

収集した情報を、以下の質問を念頭に置いて振り返ってみてください：

- *私の人生とは何なのか、そして私にとって最も大切なことは何か？*（「理想の一日」のエクササイズ）
- *私はどのような価値観や美徳を掲げ、それに基づいて生きているか？*（「20年後の自分」のエクササイズ）
- *私の人生の意義や信条を体現するために、現在どのような行動をとっており、今後どのような行動をとっていくのか？*（「60歳の誕生日」エクササイズ）

その後、自分だけのミッションステートメントの下書きを書き始めましょう。そこには、あなたの情熱や価値観、そしてその両方をどのように行動に移しているかを表現します。焦らず、自分に優しく接してください。結果よりも、そのプロセスが重要です。ミッションステートメントは一度書いて終わりというものではなく、コンクリートのように固まってしまうものでもありません。多くの人が何度も書き直しています。今後数ヶ月かけて、
草案を読み返し、推敲する時間を十分に確保してください。

カップルの方は、このプロセスをさらに一歩進めてください。それぞれが個人のミッションステートメントの下書きを完成させたら、それについて話し合い、お互いのバージョンを融合させていきましょう。金銭的な事柄を扱う上で、自分が何を重視しているかを、できる限り盛り込んでください。

すべてに同意する必要はありませんが、共有されていない活動や価値観についても、互いに支え合う可能性を探ることは有益です。[10]

カップルが3つの演習に対する互いの回答を見直し、一緒にミッションステートメントの草案を作成し始める際には、安全で、互いを批判しない雰囲気を作り出すことが重要です。そうすることで、お互いに正直になり、弱みを見せても安心できるでしょう。自分たちはある意味で先駆者であり、歴史的にほとんど議論されてこなかった「お金」「権力」「成功」についての会話に踏み込んでいるのだと意識すると、助けになるかもしれません。

ここは、カップルがお互いに好奇心を抱き、注意深く、心を開いて耳を傾け、お互いを*「発見」*していく場です。これは進行中の「仕事」であり「遊び」でもあります。未解決の疑問は、草案の中に疑問として残しておいても構いません。重要なのは、結果を出すことではなく、そのプロセスに没頭することです。

前述したように、カップルがこれらの問題について対話を始めるのが関係が深まる前であればあるほど、得られる成果は大きくなります。一人ひとりが、お金、成功、権力に関して抱えている感情的な重荷があります。*「発見」のプロセスは*、その重荷を手放す機会を与えてくれます。そうしてカップルは、互いの価値観、優先順位、情熱を探求することができるのです。これらは
どのような関係においても、初期段階で培うべき良い習慣です。カップルが「理想の一日」や、自分より年下の人々と共有したい価値観について考えを巡らせれば、どれほど実りある会話が生まれるか想像してみてください。経済的な格差が支配的であれば、こうした会話は決して生まれないかもしれません。

あなたのミッションステートメントは、方向性、モチベーション、そしてインスピレーションを与えてくれるはずです。もしそれがあなたを疲れさせるようなら、活力を与えてくれると感じるまで、粘り強く取り組んでください。私たちのミッションステートメントは、強迫観念の巣窟であってはなりません。最もありのままの自分を表現したとき、誇りと高揚感を感じるはずです。[11]

私たちの多くは、結果や目標の設定・達成、つまり「旅路」ではなく「目的地」に焦点を当てるように育てられてきました。「*ディスカバリー*」の効果を最大限に引き出すためには、答えを見つけることよりも、問いそのものに焦点を当てるよう、自らに言い聞かせなければなりません。一日のうちに頻繁に自分自身に問いかけましょう。「理想の一日には、他に何が欲しいだろうか？」「見落としてしまい、その結果、叶えられずにいる夢は何だろうか？」「さっきそう言ったとき、私はどのような信念を反映していたのだろうか？」

---

10 個人およびカップルのミッションステートメントの例については、添付資料Aを参照してください。

11 文章を書くことにあまり慣れていないカップルは、この非言語的な方法で「*ディスカバリー*」のプロセスを始めてみるのもよいでしょう。新聞用紙サイズ、あるいはおよそ3フィート×4フィートの大きな紙を用意するか、数枚の紙をテープで貼り合わせてください。 クレヨンを使って、言葉を交わさずに、二人で同時にその一枚の紙の上に、二人の共同生活を描いた絵を描いてみてください。できるだけ多くの活動や価値観――二人で共有する喜びも、共有しない喜びも――盛り込んでください。それぞれが別々に楽しんでいる生活の一面も描き込んでください。所々に言葉を添えても構いませんが、絵が主体となるようにしましょう。

私、あるいは私のパートナーは、他人が定義する「成功」や「権力」に翻弄されているのだろうか？ 私の人生において、そしてカップルとしての私たちの生活において、経済的資源は一体何のためにあるのだろうか？ ずっとやりたかったのに先延ばしにしてきたことは何だろうか？ 人生とは、しばしば「私たちが他のことをしている間に起こるもの」と表現される。*ディスカバリー*も同様で、気づきは往々にして私たちが他のことをしている時に訪れるものだ。

「*発見*」のプロセスは、経済的に不平等な関係において良好な結果をもたらすための基盤となります。自分やパートナーにとって何が重要なのかを、言葉の最も深い意味において理解することは、お互いの独自の資質を受け入れるための第一歩です。パートナーの人生に意味を与えているものが何であるかを理解することで、共感と相互尊重を育むことができるのです。

権力の適切な行使と濫用は、経済的に不平等な関係にある者同士の力学に深い影響を及ぼします。より健全な関係を築くためには、各パートナーが、表面的な地位に基づく権力とは対照的に、自身の内なる力とその源泉を見出すことが極めて重要です。 個人の力は、自分自身が何者であるか、自分にとって何が大切か、そして何を信条としているかを理解することから生まれます。つまり、それは*「発見」*から生まれるのです。地位に基づく力は、社会的地位やその他の定量的な指標といった外的な要素に基づいています。地位に基づく力は中和され、互いの個人の力に対する敬意に置き換えられる必要があります。

*「発見」*の旅は、個人やカップルに、自分自身を「証明」することをやめ、自分自身を「表現」し始める機会を与えてくれます。自分自身を証明しようとする時、人は往々にして他者の「受け入れられる基準」に合わせようとしています。一方、自分自身を表現する時、人は内面から自らの声と真実を引き出しているのです。これは、自尊心が低く、自分に価値がないと感じ、どうすれば自分の価値を証明できるか悩んでいる男性にとって、特に重要です。 経済的余裕のある女性にとっても、経済的な格差が問題視されない状況において、パートナーとして自分自身をどのように表現するのが最善かを考えることは有益です。

私の知人であるある女性は、40代ではなく20代の頃に「*ディスカバリー*」に出会えていればと願っている。彼女は、夫よりも多かった自身の資産の扱い方を振り返り、後悔している。夫は生まれながらの起業家であり、長年にわたり経済的に成功を収めていた。 結婚当初、夫は彼女に自分の事業の一つに投資してほしいと頼みました。彼女の両親は、彼女の資産は別々に管理し、自分だけのものとして取っておくべきだと繰り返し強調していたため、夫からの依頼を聞いた彼女は固まってしまいました。彼女にはその投資を客観的に評価する手段がなく、夫の気持ちを傷つけたり、自分自身に過度の不安を抱かせたりすることなく、投資に*「はい」とも「いいえ」とも*答えられるスキルも持ち合わせていませんでした。 義理の息子が彼女の財産を悪用するのではないかという両親の懸念が、彼の夢を応援したいという彼女の思いさえも覆い隠してしまった。彼女は間違った理由で投資を断り、夫もまた間違った理由で傷ついてしまった。

もしこのカップルが、交際初期の段階で「*ディスカバリー*」を実践していれば、この困難で感情的な状況は、違った形で解決されていたかもしれない。彼女は、自分の財産に関する家族からのメッセージを明らかにし、客観的に捉えることができたはずだ。彼は彼女の状況をより深く理解でき、投資に対する彼女の「拒否」を個人的に受け止めなかったかもしれない。二人は共に、自分たちの人生とは何か、夢の本質とは何か、そしてどうすれば互いをよりよく支え合えるかについて、共通の認識を築くことができたかもしれない。 彼女が投資をするかどうか、あるいは彼が彼女に投資を頼むかどうかという問題は、それほど重要ではなくなっていたでしょう。二人の

会話の焦点は、彼らの人生という大きな全体像に向けられていたかもしれない。

実のところ、こうした懸念について率直に話し合う勇気を持つ男女は、依然として少数派だ。もし彼らが私生活に健全な習慣を取り入れれば、それは種を蒔くことになり、やがて臨界点に達するだろう。そうすれば、こうした人々を支援する組織も、これらの問題に取り組み、支援や教育を提供し始めるかもしれない。『*チェイス・ジャーナル*』がこの記事を掲載したことはその好例であり、彼らはその先駆者である。

ここに、若者とその生家に向けたビジョンを提示したい。経済的に裕福か否かを問わず、家族は静かでリラックスした自然な環境の中で定期的に集まる。子供たちが10代前半になった時点で*「発見」*の旅に出発し、成人期に近づくにつれて自分たちの価値観や情熱を明らかにし始める。彼らは、安全で非批判的な環境の中で、金銭の豊かさ、あるいはその欠如が、自分たちの世界観を形成する上でどのような役割を果たしてきたかについて話し合う。 彼らは「成功」や「力」のさまざまな定義について考えを巡らせ、自分たちが属するコミュニティにおける自分の居場所を探求します。特権を巡る感情――憤りから恵まれているという実感まで――のあらゆる側面が尊重されます。既婚の家族メンバーは、自分たちが直面した課題や、経済的な格差をうまく乗り越えてきた方法を共有します。また、若い家族メンバーへのメンタリングも検討します。3つの演習で書き出したメモを共有することで、各家族メンバーにとって何が意味を持つのかを理解し始め、何が彼らを喜ばせるのかをより深く理解できるようになります。

ビジョンとは通常、壮大な夢であり、このビジョンはユートピア的とも言えるほどです。自身の未来や愛する人たちの未来に真剣に向き合っている家族にとっては、まずはビジョンの小さな断片から紹介していくことが有効です。数人の家族メンバーで試してみてください。例えば、最初は1時間だけ時間を取って、「演習1：理想の一日」だけに取り組んでみましょう。小さな変化が、やがて大きな変化へとつながります。

最後に、おそらく私たち一人ひとりの心には疑問が残っていることでしょう。例えば、こうした経済的な違いが人間関係における課題なのか、それとも他の問題を覆い隠している症状に過ぎないのか、どうすれば分かるのでしょうか？それを知るための第一歩として、*「発見」*の旅に出ることが挙げられます。そうすることで、新たに身につけたスキルを活用して様々な分野での相性を探り、時間の経過とともに浮上してくる無数の問題に対処する準備を整えることができるのです。[12]

*「ディスカバリー」*があなたの人生においてどのような役割を果たせるかを考える際、以下の質問について考えてみてください。 自尊心を低く保ち続けたこと、あるいは自分に自信が持てない、恥ずかしい、無力だと感じる時間を多く費やしたことだけで記憶に残りたいと願う人を知っていますか？ あるいは、もっと批判的だったり支配的だったり、もっと心配性であったりすればよかったと願う人を知っていますか？ 生前に自分の天職を見出す努力を一切せず、理想の一日を模索する時間も取らなかったと記録に残されたいと願う人を知っていますか？

ある人がかつてこう言いました。「成功した人生を送る秘訣は、目標を達成することではなく、自分の可能性を最大限に発揮することにある」と。*ディスカバリーは*、私たちがその可能性を最大限に発揮できるよう支えてくれます。経済的な不平等に焦点を当てている限り、私たちは成長も繁栄もできません。

[12] 資産問題に精通した有能なセラピストによる婚前カウンセリングは、計り知れない価値があります。この場で自分たちの価値観や天職を明確に表現できれば、堅実なスタートを切れるという確信が持てるでしょう。

夫婦として経済的な格差にエネルギーを注ぎ続けていては、その壁を乗り越え、個人として、そして将来のパートナーとして自分たちが何者であるかを発見することは決してできません。私たち一人ひとりは複雑な人間であり、探求すべき豊かな物語を持っています。その物語は、経済的な資源の違いをはるかに超えたところへと私たちを導いてくれるものです。豊富な資産を持つ特権的な立場にある人々も、お金だけで定義されるわけではありませんし、経済的資源が少ない人々のアイデンティティも、お金が少ないという事実だけで定義されるわけではありません。

「ディスカバリー」は、経済的な格差が存在する関係においても、成功する関係を実現するための新たな可能性を提示します。このモデルを通じて、カップルは自分たちにとって有益ではない社会的規範や文化的圧力に対抗する手段を得ることができるでしょう。

* * * * *

やがて、「経済的不平等者」という言葉が、過去の遺物となることを願っています。 この新しい言葉と、それにまつわる物語や象徴を通じて、男女間の経済的資源の配分は、性別によるものではなく、それぞれの能力、関心、そして人生の歩みに基づいて行われるようになるでしょう。また、真の幸福とは、社会が男女の地位に関する時代遅れの見解に基づいて個人の人生の歩みを決定するのではなく、その個人にとってふさわしい領域で自らの天職を追求する自由から生まれるものであることも、広く認識されるようになるでしょう。

© 2000 ジェームズ・E・ヒューズ・ジュニア、ジョアニー・ブロンフマン、ジャクリーン・メ

リル 『*The Chase Journal*』第IV巻第4号に初掲載

別紙A

個人的なミッションステートメントの例

私の人生とは、他者を力づけるリーダーとして、メンターとして、生涯学び続ける者として、母として、祖母として、献身的な友人として、パートナーとして、そして活動家であり慈善家として、自分の可能性のさまざまな側面を探求することです。私は自分の創造性、精神性、そして官能性を大切にしています。私は自分の限界を押し広げ、自己不信や恐怖を乗り越えることを信条としています。

かつて完璧主義者だった私は、今、自分自身に優しく接し、自分を大切にすることを学んでいます。内省する時間と、生産的に過ごす時間のバランスを大切にしています。

カップル向けミッションステートメントの例

カップルとしての私たちの使命は、精神的、感情的、芸術的、知的、そして肉体的な面において、互いの成長を支え合うことです。私たちは、お互いが安心感を持ち、批判されないと感じられるよう尽力すると同時に、つまずいた時には自分自身を許すよう努めます。厳しい真実を共有し、互いに耳を傾け合えるよう、コミュニケーションスキルを磨き続けます。私たちは、互いの好奇心と思いやりを育み合います。

奉仕という使命を持つカップルとして、私たちは、地域社会や世界全体に影響を与えるために、個々として、また共に、どのようにエネルギーを注ぐかを探求します。

家族の一員として、私たちは親族の生活における成長や試練を共に喜び、思いやり、好奇心、ユーモア、そして誠実さをもって、自分自身と彼らのために新たな学びを引き出します。

私たちは、楽しみや友人との時間、分かち合いのために一緒に過ごす時間を確保し、互いの孤独を求める気持ちを尊重します。

参考文献

ブロンフマン、ジョアニー、*『相続財産の経験：社会心理学的視点』*、未発表原稿、UMI（University Microfilms International）、ミシガン州アナーバー、1987年、電話：1-800-521-0600。

Clark, Kim, 「*Women, Men and Money*」, 『Fortune』誌, 1996年8月5日号, pp. 60-61.

エモット、ビル（編）、*『20世紀を振り返って』*、『エコノミスト』誌、1999年9月11日～17日号、5～44頁。

ファルディ、スーザン、*『Stiffed: The Betrayal of the American Man』*、ウィリアム・アンド・モロー社、1999年。ライボビ

ッチ、ロリ、*「Reversal of Fortune」*、『ハーパーズ・バザー』、2000年8月号、192ページ。

ソーンヒル、ランディ、*『レイプの自然史：性的強要の生物学的基盤』*、MITプレス、2000年。

タウンゼンド、ジョン・マーシャル、*『男が望むもの、女が望むもの：なぜ男女は愛とコミットメントをこれほど異なって捉えるのか』*、オックスフォード大学出版局、1998年。

タウンゼント、ジョン・マーシャル、レヴィ、ゲイリー、*「潜在的なパートナーの身体的魅力および社会経済的地位が、性行動およびパートナー選択に及ぼす影響」*、『Archives of Sexual Behavior』、第19巻、第2号、1990年。

ウィーダーマン、マイケル・W. および オールガイアー、エリザベス・ライス、*『配偶者選択基準における性差：社会生物学的説明か、社会経済的説明か』*、『Archives of Ethology and Sociobiology』、第13巻、1992年。